

貯蔵容量を増やさない方針だとしています。

水田氏は面談後、記者団に対し、「乾式貯蔵施設は（中間貯蔵施設への）搬出を田舎に進めるための施設」と説明。全体の貯蔵容量は増えないため、県との約束に矛盾しないとの立場を強調しました。

「原発構内貯蔵」示す

関電 使用済み核燃料めぐり

関西電力の水田仁原子力事業本部長は10日、福井県庁で中村保博副知事らと面談し、県内の原発にたまり続ける使用済み核燃料について、原発構内に空冷の「乾式貯蔵施設」を建設し、「一時保管する計画を示しました。」

のため、関電はこれまで、中間貯蔵施設の県外候補地を23年末までに選定すると県に説明。しかし、6月には使用済み燃料全体のわずからぬをフランスへ搬出する計画を提示するとともに、「約束は果たした」との立場を示しましたが、計画に理解が得られるかは不透明です。今回、中間貯蔵施設については、新たな立地地点を確保し、2030年ごろに操業を開始するとしています。

関電はまた、使用済み燃料を26年度以降に青森県六ヶ所村の再処理工場に搬出する計画も示しました。フランスへの搬出も積み増し、今後は原則として